



2018年3月期第2四半期 決算説明会

東京製綱株式会社

(TOKYO ROPE MFG. CO., LTD.)

2017年11月30日

1. 2018年3月第2四半期 決算概要

2. 2018年3月期 見通し

3. 成長戦略事業の加速

2018年3月期第2四半期 決算ポイント

ワイヤソー事業撤退による売上減により減収減益

売上高 294億48百万円〔前期比 $\Delta 8.4\%$ 〕

ワイヤソー事業撤退による売上減とタイヤコード、ソーワイヤの減により減収

営業利益 9億90百万円〔前期比 $\Delta 41.2\%$ 〕

主に売上減少により減益

**親会社株主に帰属する
四半期純利益** 7億44百万円〔前期比 $\Delta 8.2\%$ 〕

為替影響改善により最終益は小幅減益にとどまる

2018年3月期第2四半期 決算ハイライト

(金額:百万円)

	17年3月期 第2四半期		18年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	32,141		29,448		△2,693	(△8.4%)
営業利益	1,684	(5.2%)	990	(3.4%)	△694	(△41.2%)
経常利益	1,235	(3.8%)	1,059	(3.6%)	△176	(△14.3%)
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	810	(2.5%)	744	(2.5%)	△66	(△8.2%)

セグメント別の状況(売上高)

鋼索鋼線 : 国内EVRはメンテ需要の前倒しにより堅調
 繊維ロープの台風特需終息と海外EVRの減少により横ばい

スチールコード: ワイヤソー事業撤退に加えタイヤコード、ソーワイヤの販売減により減収

開発製品 : 国内道路安全施設堅調。CFCC販売増により増収

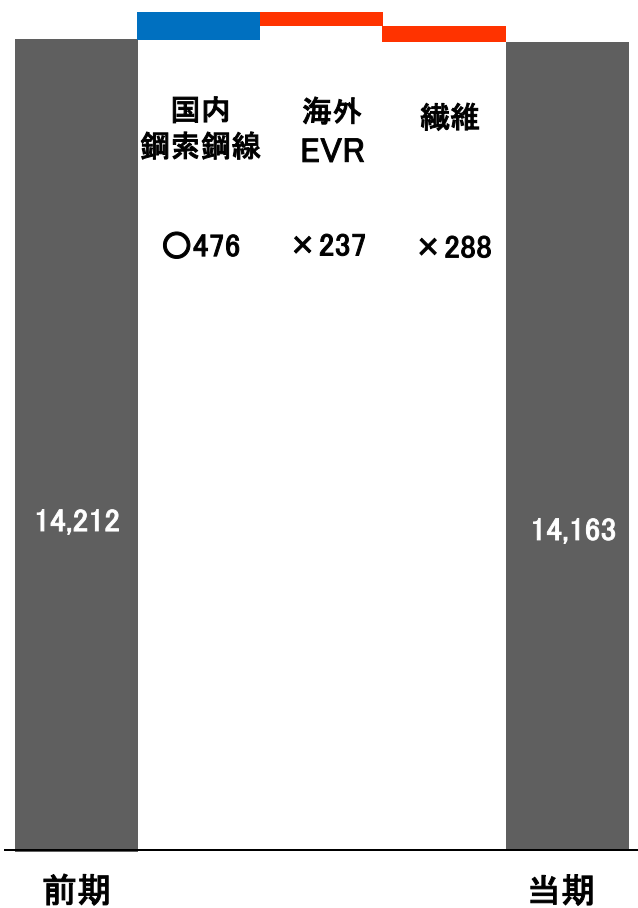
(金額: 百万円)

	17年3月期 第2四半期		18年3月期 第2四半期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	14,212	(44.2%)	14,163	(48.1%)	△49	(△0.3%)
スチールコード	8,583	(26.7%)	5,361	(18.2%)	△3,222	(△37.5%)
開発製品	5,344	(16.6%)	5,858	(19.9%)	+514	(+9.6%)
不動産	661	(2.0%)	620	(2.0%)	△41	(△6.1%)
その他	3,339	(10.4%)	3,444	(11.7%)	+105	(+3.1%)
合計	32,141	(100.0%)	29,448	(100.0%)	△2,693	(△8.4%)

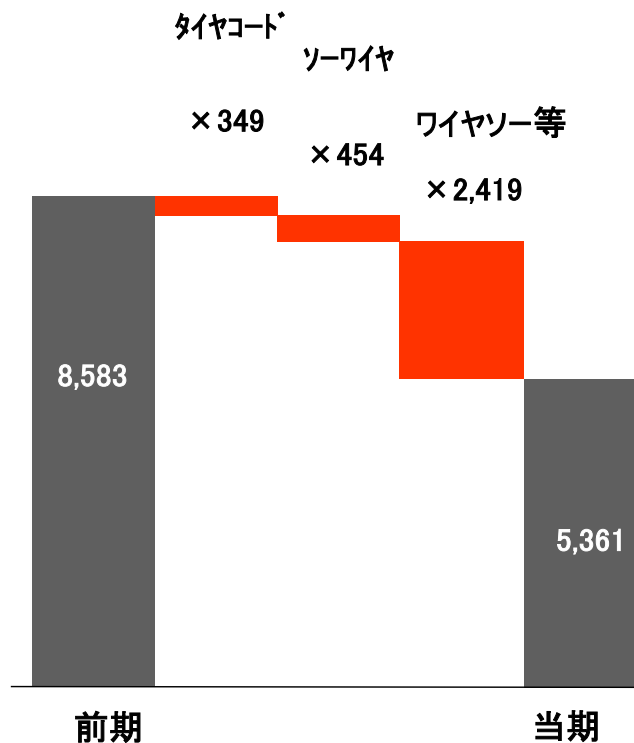
増減要因分析(売上高)

(単位:百万円)

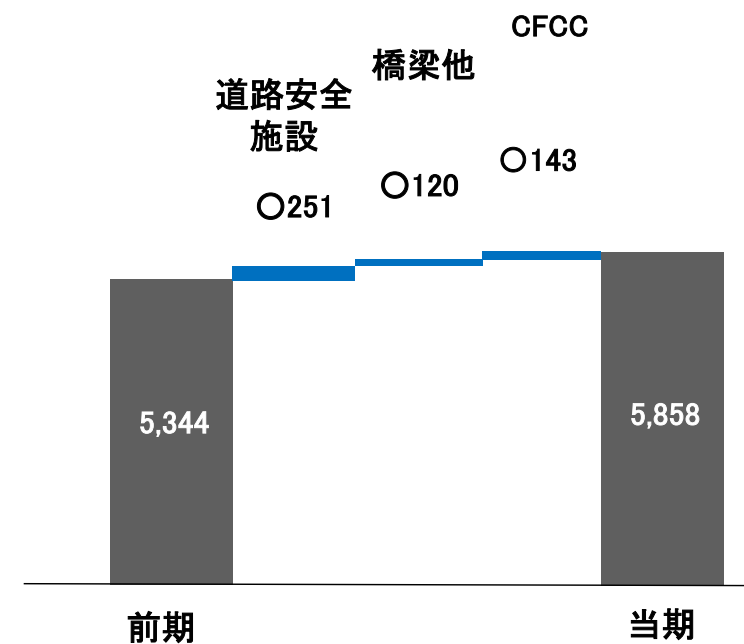
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



セグメント別の状況(営業利益)

鋼索鋼線 : 海外EVR・繊維ロープの減収による減益

スチールコード: ワイヤソー事業撤退とソーワイヤの販売減に伴い減益

開発製品 : 国内道路安全施設の増収により利益改善

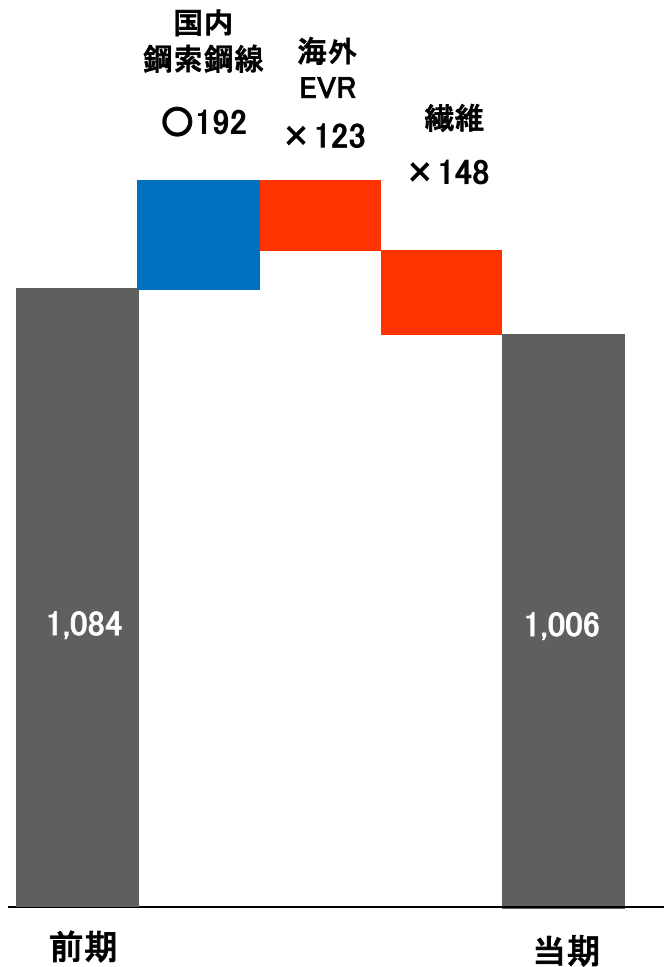
(金額: 百万円)

	17年3月期 第2四半期	18年3月期 第2四半期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	1,084	1,006	△78	(△7.2%)
スチールコード	840	50	△790	(△94.0%)
開 発 製 品	△607	△455	+152	-
不 動 産	174	144	△30	(△17.2%)
そ の 他	193	244	+51	(+26.5%)
合 計	1,684	990	△694	(△41.2%)

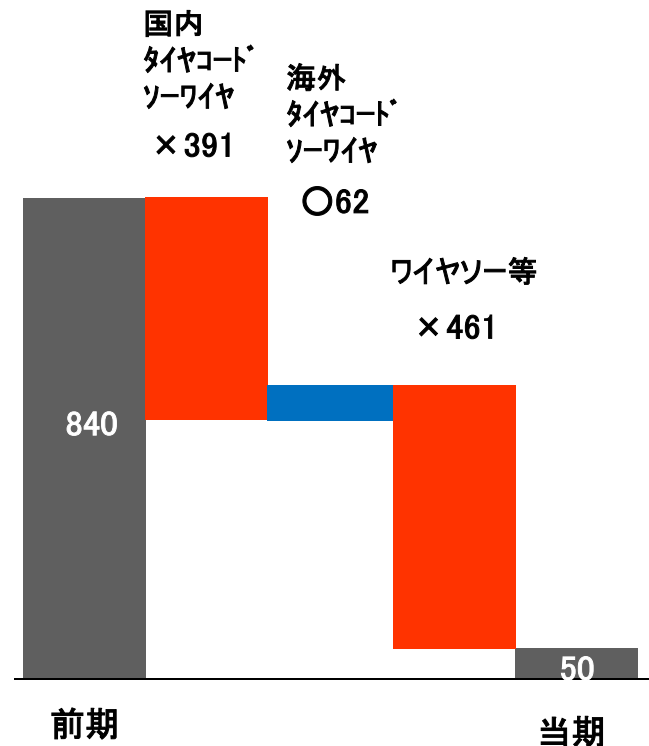
増減要因分析(営業利益)

(単位:百万円)

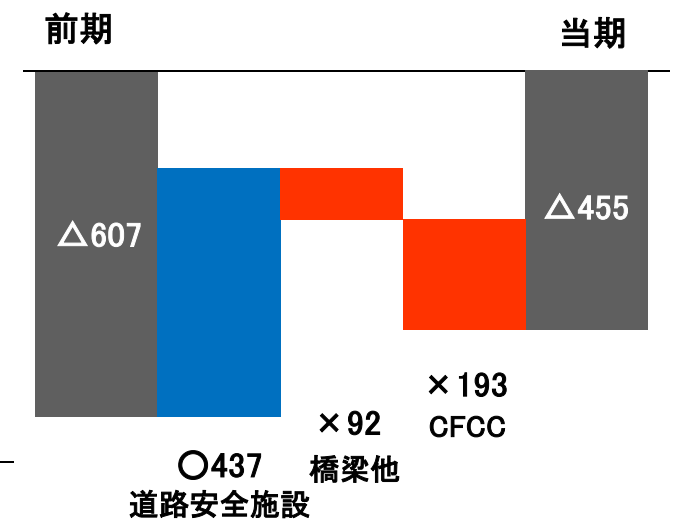
鋼索鋼線



スチールコード



開発製品



キャッシュ・フロー

営業活動：概ね期間利益および減価償却費見合い

投資活動：有形固定資産の取得（北米、土浦） 15億円

財務活動：下期の投融資に備えた資金調達 20億円
配当金支払 6.5億円

（金額：百万円）

	17年3月期 第2四半期	18年3月期 第2四半期
現金及び現金同等物の期首残高	4,569	3,144
営業活動によるキャッシュ・フロー	503	1,708
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,159	△1,844
フリー・キャッシュ・フロー	△656	△135
財務活動によるキャッシュ・フロー	△923	1,301
その他（為替換算差）	668	169
現金及び現金同等物の期末残高	3,659	4,481

設備投資の状況

2018年3月期第2四半期
設備投資額

1,506百万円 (前年同期比+846百万円)

事業本格化に備えたCFCC北米工場の固定資産取得 及び
土浦工場 戦略投資(競争力強化投資・橋梁ワイヤ設備)

(参考)公募・売出による調達資金の使用状況(意思決定含む)

(百万円)

セグメント	資金使途	投資予定額	累計投資実績 2017年9月末時点	完了予定年月
開発製品	CFCC生産能力増強	1,296	1,296	2018年12月
鋼索鋼線	国内生産能力増強 (ITシステム含)	638	638	2018年3月
その他	精密切削工具用素材 生産能力増強	399	399	2016年2月
合計		2,333	2,333	

1. 2018年3月期第2四半期 決算概要

2. 2018年3月期 見通し

3. 成長戦略事業の加速

2018年3月期 見通し

CFCC及び防災製品の海外拡販により
スチールコードセグメントの減収をカバー。増益を見込む

(金額:百万円)

	17年3月期		18年3月期		前年同期比	
	金額	(売上高比)	金額	(売上高比)	金額	(増減比)
売上高	64,993		65,000		+7	(+0.0%)
営業利益	3,492	(5.4%)	3,500	(5.4%)	+8	(+0.2%)
経常利益	2,989	(4.6%)	3,500	(5.4%)	+511	(+17.1%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,882	(2.9%)	2,600	(4.0%)	+718	(+38.1%)

2018年3月期 セグメント別見通し(売上高)

鋼索鋼線：海外EVR減少により減収

スチールコード：ワイヤー事業撤退、
タイヤコード、ソーワイヤの販売減により減収

開発製品：CFCCおよび防災製品の海外プロジェクト進捗により大幅増収

(金額:百万円)

	17年3月期		18年3月期		前年同期比	
	金額	(構成比)	金額	(構成比)	金額	(増減比)
鋼索鋼線	28,736	(44.2%)	28,000	(43.1%)	△736	(△2.6%)
スチールコード	14,506	(22.3%)	11,000	(16.9%)	△3,506	(△24.2%)
開発製品	12,927	(19.9%)	16,800	(25.9%)	+3,873	(+30.0%)
不動産	1,315	(2.0%)	1,200	(1.8%)	△115	(△8.7%)
その他	7,508	(11.6%)	8,000	(12.3%)	+492	(+6.6%)
合計	64,993	(100.0%)	65,000	(100.0%)	+7	(+0.0%)

2018年3月期 セグメント別見通し(営業利益)

鋼索鋼線：売上減に伴い減益

スチールコード：ワイヤー事業撤退に加え、
タイヤコード、ソーワイヤの減収による減益

開発製品：CFCC及び海外防災製品の拡販に伴い黒字化

(金額:百万円)

	17年3月期	18年3月期	前年同期比	
			金額	(増減比)
鋼 索 鋼 線	2,182	2,000	△182	(△8.3%)
スチールコード	1,159	400	△759	(△65.5%)
開 発 製 品	△622	200	+822	-
不 動 産	323	300	△23	(△7.1%)
そ の 他	450	600	+150	(+33.3%)
合 計	3,492	3,500	+8	(+0.2%)

配当方針

18/3期：40.0円の配当を予想

年 度	16/3期	17/3期	18/3期 予想
配当（年度当り）	4.0円/株	40.0円/株	40.0円/株
配当性向（連結）	24.0%	34.4%	24.8%

※当社は、2016年10月1日をもって当社普通株式の単元株式数を1,000株から100株に変更するとともに、10株を1株とする併合を行いました。

1. 2018年3月期第2四半期 決算概要

2. 2018年3月期見通し

3. 成長戦略事業の加速

CFCC事業/海外防災製品事業を分社化

- CFCC事業/防災製品事業の海外市場は大規模な潜在需要
- 各国の政治・経済情勢に合わせた、タイムリーな営業活動が重要

分社化により



権限と責任を移管。意思決定を迅速化

- 事業展開を加速
- トップセールスの積極的展開
- 海外ビジネスに特化した環境構築

- ✓ 権限委譲による即断即決
- ✓ 最適な人事制度の導入
- ✓ グローバル対応したIT、管理、商流

新会社概要

・20/3期(中期計画)

売上 130億円

CFCC	85億円
海外防災	45億円

営業利益 25億円

・社名:

東京製綱インターナショナル(株)

・事業開始:2018年4月

当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿

●定性的目標

2020年以降の持続的成長にフォーカスし、その礎を築くべく、「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」によって、グローバル市場での競争力強化を図り、より一層社会に貢献できる企業価値の高いエクセレントカンパニーとなることを目指す

●計画最終年度の定量目標(20/3期) [2017年5月発表数値]

売上高	800億円以上	海外売上比率	26%以上 (例年14%の約2倍)
内新会社	130億円以上	内新会社	16%以上
営業利益	80億円以上 (17/3期実績の2倍以上)	EBITDA	100億円以上
内新会社	25億円以上	内新会社	32億円以上

CFCC[®] / 新生産拠点の設立

潜在需要が増大している東南アジアでの事業拡大に対応

- 場所：岩手県北上市
(子会社跡地を活用)
- 生産能力：3,500km/年
(国内既存拠点と併せて6,000km/年)
- 投資総額：15億円
- 稼働時期：2018年7月予定



CFCC 新生産拠点

CFCC[®] / 送電線事業の海外展開

1. インドネシア

高温低弛度電線用CFCC需要は今後3年間で250億円以上を見込む

2. 北米

有力ユーザーと共同技術開発を推進。ユーザーは来年2月から高温低弛度電線の販売開始。米国でのCFCC需要は今後3年間で100億円以上を見込む

3. その他

インド、ブラジル、マレーシアでは現地パートナーにて電線試作中。来期以降各国で予算化され、受注開始予定。



CFCC[®] / 土木事業の海外展開

1. 全米高速道路交通協会 (AASHTO) とミシガン州運輸局の設計指針の制定は計画通り2018年度中を予定。
2. 既に州独自の設計指針が制定されたフロリダ州やヴァージニア州の海岸地帯で、大規模な需要が見込めるコンクリート杭にCFCCが採用。
3. ヴァージニア州において、新たなプロジェクト(当社製品約4億円)受注に向けて営業活動展開中。

フロリダ_Halls River



コンクリート杭 内部のCFCC



防災製品の海外展開

1. カザフスタン（市場規模 20億円）
受注実績は着実に伸長。製造品目拡充と能力増強のため、アルマティ市の工業ゾーンへ工場移転(2018年3月操業)
2. ロシア（市場規模 50億円）
現地有力ゼネコンと事業提携。サンクトペテルブルグ市に防災製品工場を建設(2018年5月操業開始予定)
3. サウジアラビア（市場規模 数百億円）
サウジアラビア「Vision2030」、メッカ巡礼者を800万人から3,000万人とする目標。メッカ巡礼道路の大規模整備を見込む。



当社グループが目指す中期経営計画最終年度の姿

●定性的目標

2020年以降の持続的成長にフォーカスし、その礎を築くべく、「トータル・ケーブル・テクノロジーの追求」によって、グローバル市場での競争力強化を図り、より一層社会に貢献できる企業価値の高いエクセレントカンパニーとなることを目指す

●計画最終年度の定量目標(20/3期) [2017年5月発表数値]

売上高	800億円以上	海外 売上比率	26%以上 (例年14%の約2倍)
営業利益	80億円以上 (17/3期実績の2倍以上)	EBITDA	100億円以上
ROE	14%以上 (財務体質改善との両立を目指す)	D/Eレシオ	0.7以下 (ROEの維持との両立を目指す)

本資料は当社が発行する有価証券の投資勧誘を目的として作成されたものではありません。

本資料に記載された予測、予想、見込みその他の将来情報は、現時点で当社が把握可能な情報および一定の前提または仮定に基づくものであり、今後、経済情勢をはじめ、当社の業績に影響を与える様々な既知または未知のリスクによって、ここに述べられている見通しと実際の結果が、大きく異なる可能性があります。